

令和4年度生野区区政会議(第2回まちの未来部会)
 いただいた主なご意見等(要約)と区の考え方、対応
 開催日:令和4年11月1日(火)
 場所:生野区役所6階 604・605会議室

ご意見等(要約)	区の考え方、対応(要約)
<p>いくの多文化クロッシングフェス2022は、すごくよかった。ザ・生野って濃さがあり、これまでとは違う新しい生野を凝縮した感じがした。今後、生野区の魅力になるだろうとすごく感じた。ロコミでよさが広まり、イメージチェンジとなる、明るい未来を感じた。ああいうエネルギーのある人たちが、まちづくりのキーマンにもなると思った。</p>	<p>令和4年10月30日、御幸森小学校跡地におきまして、様々な国の料理を楽しめる世界の屋台、地元中学生や大学生と地元企業のワークショップ、多国籍なパフォーマンスを楽しめるステージプログラムなど、国籍や年齢を問わず、多様な文化的背景をもつ人々が自由に集い、交流し合える誰もが楽しむことができるお祭り「いくの多文化クロッシングフェス2022」が開催されました。</p> <p>これは、御幸森小学校の跡地活用事業者により、御幸森小学校跡地で多文化共生のまちづくり拠点の構築を通じて、誰もが暮らしやすい全国No.1のグローバルタウンを目指す「いくのコーライブズパーク(略称いくのパーク)」のプレオープンイベントとして実施されたものです。</p> <p>当日は、たくさんの来場者が集まり大変な賑わいを見せていました。</p> <p>今後とも、このようなイベントをはじめ、生野区の様々な施策・取組を、生野区の内外にしっかり伝えるとともに、まちづくりの担い手とも協働し、生野区のまちの魅力向上に向けて取り組んでまいります。</p>
<p>教育も大事だが、町にいろんな面白いものがあると、すごく魅力あるものになると思う。 生野区も、空き家を綺麗にして、起業できる人を募集し、そこで起業のために補助すれば、いろんな人が入ってきて、まちの活性化にも繋がると思う。</p>	<p>空き家の利活用については、空き家利活用改修補助制度の周知にも努めるとともに、オーナーと空き家の活用希望者とのマッチングについては民間事業者と連携し、所有者へアプローチを行い、具体的なニーズに対応しながら空き家の活用を促すなど、様々な手法をもって利活用の促進を進めてまいります。</p>
<p>まちの姿というのがありますが、当事者となる人やエンジンになる人は誰か。誰かが、やらないといけない。</p>	<p>将来ビジョンで掲げるまちの姿の実現に向けては、行政だけでなく地域住民の方々をはじめ、企業や専門家の方々などさまざまな力が必要となってきます。</p> <p>リノベーションをするには建築家やデザイナー、専門家が必要になり、ワンストップで相談できる専門家チームを作る必要があります。生野区には、いろいろなリノベーションが実際にできており、力のある専門家、建築家・デザイナーがすでに存在しています。</p> <p>こういう方々をネットワークで繋げるとともに、様々な専門家や地域の皆さんのお力もお借りしながら、空き家の掘り起こしに取り組んでまいります。</p> <p>また、空き家でお店をしたい人やものづくりの町工場の方などが「創業」の主体となる方々です。町工場の高い技術力とベンチャーや大学研究者のアイデアをコラボして一緒に新製品を作る拠点づくりを検討してまいります。</p> <p>なお、区政会議の委員の方々から今後も活発な意見交換をしていただくことで、その熱量がまちを動かすエネルギーになりえるものと考えています。</p>
<p>この資料の好循環にまわしていくための2分野3分野は重要だが、担い手がどこにいるのか。生野区に全く来てくれないかもしれないという事との戦いに多分なってくる。魅力をどう作っていくのかや、それを担えるプロフェッショナルが必要。その人たちをどう見出すのか、どう組めるのかを考えないといけない。</p> <p>本当にやるための枠組みっていうものがある。それは、このことを本当にやらなければいけない人もやりたくて仕方がない人、それを実現できるような力がある人。それをどう集めるのか。その人たちが、本気になってそのことに対して動き出すっていうことが、このビジョンに備わっているとこのビジョンってすぐ実現するんだらうなという気がする。</p>	
<p>多文化共生の話では、委員の中に韓国籍の方はいるが、ベトナム籍の人はいない。一番早いのは、そういう人がいるってこと。本当に多文化共生を形にするためのチームづくりには、そういう人たちが必要。具現化するには、本当にやるための枠組みや仕組みが必要。</p> <p>やらなければいけない人、やりたい人、実現できる力のある人をどう集めるのか。</p> <p>その人たちが本気になって動き出すっていうことがこのビジョンに備わっていると、ビジョンはすぐ実現するという気がする。</p>	

ご意見等(要約)	区の考え方、対応(要約)
<p>グローバルでは、海外の人たちとの交流を深める中で、世界に対抗できる新しい企業が生野から生まれるっていうステップアップのような感じを絵をかいてアプローチしていくことが重要と思った。</p>	<p>グローバルなまちでありものづくりのまちでもある生野にふさわしいような、町工場の高い技術力とベンチャーや大学研究者のアイデアをコラボして一緒に新製品を作る拠点づくりを検討してまいります。</p>
<p>民間企業や事業者が必要とあるが、これは誰なのか。いま生野区にいる人なのか、招き切れるのか？プロフェッショナルと言われる人を入れないと、このビジョンは絵に描いた餅になる。</p>	<p>意欲ある事業者と社会実験でまちの未来を「見える化」していけるようなまちの活性化プロジェクトを進めてまいります。</p>
<p>まちの不動産価値は、人が上げる。地主たちの教育の場を作るのも面白い。誰かが音頭をとって、地主が自分の空き家を布石として人の流動が作れば、その周辺に人が集まるような環境ができ、まちの資産も上がり、不動産価値も上がると思う。</p>	<p>リノベーションをするには建築家やデザイナー、専門家が必要になり、ワンストップで相談できる専門家チームを作る必要があります。生野区には、いろいろなリノベーションが実際にできており、力のある専門家、建築家・デザイナーがすでに存在しています。こういう方々をネットワークで繋げるとともに、様々な専門家や地域の皆さんのお力もお借りしながら、空き家の掘り起こしに取り組んでまいります。</p>
<p>人の流動があるところで、行政がどう広告をするか。行政が何か補助するよりもまちに来てもらうために、生野区の魅力を書いたビラや区の施策を書いたビラを撒くのも面白い。 生野区はどのようなブランディングで行くのか、ダイバーシティをつくれるのこのまちくらいしかないんじゃないかと、多世代・多文化交流が魅力なので、どう見える化して、アプローチするのが大切。</p>	<p>生野区のまちの特色を活かした魅力向上は区役所としても重要な視点・アプローチと考えています。また、そのためには、行政だけでなく地域住民の方々をはじめ、企業や専門家の方々などさまざまな力が必要となります。公民地域それぞれの持つ強みを活かして大きな力となることで、生野区のまちを効果的にプロモーションし、まちのブランディングへとつながっていきます。2025年の大阪関西万博の開催を契機に、地域経済の活性化を区政の柱のひとつとして、まちの魅力とにぎわいの創出に取り組んでまいります。</p>
<p>大阪市も地方と同じような感じになっている。先を見据えて、関わってくれる人たちを増やして、そこから口コミで「このまちが面白い」って広まるといい。やっぱり口コミって強いと思う。 3フェーズ先ぐらいの戦略を練ってする必要があると思うが、そういう形で、生野のまちが、魅力ある面白いまちだと思うんで、どう呼んでいくかを考えていくのが面白いので、みんなで考えられたらと思う。</p>	
<p>引っ越した人に「何で引っ越してきたか」を聞いたら、「利便性の割には安かった」と聞く。生野区に住みたい。住み続けた人、生野区で子育てしてくれる人を増やす必要がある。明るいイメージが出てきたら、生野区が良くなる。</p>	
<p>大人たちが面白く、ワクワクしてないと、こどもたちが集まってこない。面白い魅力的なまちでは、大人たちが何かやったり、チャレンジしている。それを真似する大人がもっと増えていけばいいと思う。教育の基本形は、まねることから始まる。 教育には、教える教育もあれば、協力し合いながら育むって協育や、共に育む共育もあると思う。この三つの教育っていったところを具体化する。協育は、出産を経験した先輩と連携できるような場所で、協力しながら、共に育むまちを作り、そこにこどもたちを巻き込み、大人たちはこうやって作り上げていくんだって背中では学ぶ教育や、教える方の教育も重要になってくる。</p>	<p>こどもたちが楽しくチャレンジする大人たちを真似するという姿はこれまでもこれからも時代を創っていく大きなモデルであると考えられます。 この度の将来ビジョンの素案においても、公民地域連携のステージの中で、第4分野としてまちづくりの担い手が次世代へ継承され拡充し、持続・発展していくまちづくりについて言及し、そのステージの標語として委員からいただいたご意見にある「共に育むまちづくり」として「共育」の2文字を使わせていただいております。</p>